



913
カ7



文化癸酉夏

四季三番叟

梅樹軒逸人

梅樹軒印
癸酉夏



愛知県有物品



405.29
117116

A 9/3
カ7



安か年修須日乃中向乃海須園生徳女乃

君乃鈴乃乃高音仁捷以給以糸止糸手糸事

皆天音圖乃道乃廣純仁住留草毛本毛

花手琴婦乃乃存乃光仁啼中乃音

古今仁乃乃奈純君連乃捷以執婦事乃

高美止波成乃尾張乃之瀬川能

日表此道 中 控 止志天 第代 中 訊 比 结 比

栲樹主人 乃興仁 意 志天 酒嗅 乾 獻 礼也

交 留 猿巢 乃 能 谐止 訊 比 露 比 納 中 車 乃

由 平 摠 泉 余 留 海 士 子 乃 高 彦 鈴 手

滿 比 良 智 宇 止 曾 忍 美 忍 美 毛 申 信 久 比

申 壽



改耳

樂有 控 尾 意

言是 月 中

交 寸 中

今 日 的

於 此

於 此

とをしめし魂とら
梅枝の下の人
さくら？ 何と云
その 何と云 姓の
さくら 筆下の 筆
下の



あはれ
梅もさくら
し
ナ
お
お

つれづれにさるかの言
申のたねのまゝの
さびよつるあまの標
乃さめくはあまの
ふゆのよきと

このあるまゝあはれ
辞——年——辞ゆし
あはれ——乃君ら
年のはるまゝ
のふゆのまゝ

この儼然たるは禮いと申してあるは
廿八日として終らるるは月とて
即ち月として先づ一卷の終として
尺波のうらみより燕喜堂のあり終ると
おしく祝は一條の終と全一狂言倚
語り変化の自由とありは終ると
殊に面白きことなりといふことなり

あゝ——きんも四巻あるは幸なり
あゝ——きんも四巻あるは幸なり

彌言

文化あるはあり

萬籟の檐下にあり

翠庵風也



初日番組

面箱 川瀨淨曉竹園昆明

翁竹内春政 鶴菴竹有十歲 松門菴了榮花癖少母

三番叟 加藤蕭梅樹軒逸人

養老 加藤蕭梅樹軒逸人

末廣 小出民助棊遊舎也實

八島 當時熱河洞津西天塚里在庵菴舟坊翠菴密

間那須 前田久藏友鳳

清水 侘殿星助秋磨

松風 山中治陸乾挑菴范舎

鷄輦 太田新吉來々

善知鳥 水野松兵衛兩播

靱猿 芦原入道廣海紫雪關人快臺

猩々 竹中又兵衛金花樓嵯鹿

二日目番組

秀勺傘 慈舟坊

鐘の音 日都安藤彈正忠完名藤原真彦臣連

不須 川瀬淨曉入道

宗論 本門菴花癖

志多々々 二本木増治郎南桃菴舍童

狐塚 竹中又兵衛

雷 竹内宿寢春政

花子 蘆原入道廣海

昆布按 加藤陸四郎惠

子盗人 扇關花屋入道木天

箕被 吉田姓洛里子

蠅山伏 加藤乙五郎惣

武悪 伊藤惣助九郎舍吾舟

横座 肥後熊本河部彌治郎播磨壺早司陸軍

闖罪人 加藤肅



要存先
此号
黒漆櫃

面箱

之芳野やててててててての時 九竹園 樹守

十歳

十歳もまゝ所持てててて 花辨 松叟

翁

之年小室乃老木や翁也 大鶴 塊翁

三番叟

外と後よしとてててててて 梅樹 櫻叟

題養老

春神祇

神乃

久々

ふかの



ききや

あま

のあと



梅樹軒
逸人



茶遊舎

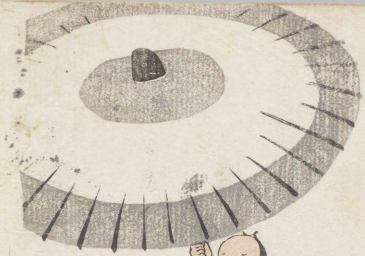
唐小員也

春日山

茶遊舎
也實



題末廣春



題八島夏秋教

夏秋
部之弟

念叔之家

暗死之介

伊勢

翠菴
夙也



回那須

元鷹乃的ハ

大川流成附也

友鳳



題清水夏

ゆふははせしき

目先上神の

とろろとろ

陀殿

秋磨



題松風秋戀

燕一はや

君の松吹

秋乃丸



乾桃庵

范舎



題鷄舞秋

婿入牙

家於新婦



月夜哉

來々





題善知鳥

冬無常

善知鳥

冬無常の袖のしるし



兩橋



猿さるの舞まひの終はつ儀ぎ

家いへとささえ

紫雲間人
快臺



題 鞞くわ猿さる

冬



題程々

雜祝

浪乃多も

大巻の如くりか

全花樓

嵯鹿



みしう教も

あー

こわい

帰る

空の枝

ふら

敷み 四口



狂言組

秀勺傘



剃道了也

始一き

装乃

存束乃

風也
圖



鐘凍

萬金丸

雀も啼

法蓮子

日都

真彦



鐘乃音



不煩

宗子

と



砂糖ふく

とふ

好半里

昆明



宗論

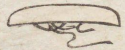


満ちき坊主

二人

夏乃月

少女



志望里



五

太房冠者

あふ々 鱸乃

夕何り

舎童



五

狐塚

好先古

きつね

塚

り

啼

好先古



嵯鹿



かき
せり



天

浮

溜

お
うり
や

な
る
月

竹
有



照りやう

下園ひけた

好色衣

快臺



花子



昆布杓



又々

丹波津路の

郭ろ

少年
陸四郎





角向のきり

木天



愛小子

新ハ家

新ハ

子盗人



里女



夏のき

箕被

箕刈りさの

やうふと

雅あり



少年
乙丑郎



三



耳
ふねと
蛸乃
ら
は
わ
ら
き
な
ら
ば

蝸山伏
田原



法供世々

地獄極々

郭云

吞舟



武忠



横座

善竹や

あはれ



まろふ

牛の壺

肥後
一壺



闇罪人

責らる

アト主

牙と

いづ

せん蚤乃蹟

昆明



カ

祇園會



園と

乙子太師冠者

~~~~~

鬼冠者

逸人



カ



立頭

あつてく

鞞

しつちも山吹ふれりしと、鄭云 少汝

大鼓

ちとるんけや沸き清海沿竹有

太鼓

重の輩ら何様うりてあ人鞞 杖堂

鉦

ふもももくと太鼓く門くし久納凍 吞舟

立尻

一乃去二社き月 蟬のきる哉 舍童

さふふにけきけぬの者 素小 真丹

本末納凍 吾得もあは祭ませ 夙也

菊のの墨りかき 鏡乃同 兩楯

袴あーがー 石河 石雅

切幕や沸き風乃くく 彰也實

いけ衣紋揃(まきつ) 不轉

わつさ目とけひ揃き若あ 素律

日向  
真彦

何てハ風とくくく啼く松乃蝉

あつさおほくふふ乃虫六日 逸人

指墨よき山や竹やうつろん 昔華 相手

綱骨姑先にしハ後 舎童

有存の辨乃是所と傳ひまゝ 少汝

鼻志をく由支吾の取わし 世實

叶ふきのまどり浅子の吐吸ぬ 嵯鹿

はくふ乃きれ啼かぬ 快臺

湯湖の小田よあふく沫乃き 竹石

膝と向ふくし中 藪子丸 伊勢 風也

淡よあふかり片は未 賢屋 逸人

藪子 甲性 落葉ちり込 真彦

源 源系乃の多夜 紙貝と吹 舎童

力の 鞘子 へる 酒 壺 相手

非

種よふと残しと悲よ折ふも 伏臺  
米馬のむりし一海おぢへし 少汝  
ふのきの一編清きき清き 逸人  
をを類 白牡丹 菊よふりし 也實  
山奇よあふるにふりし 嵯鹿  
名古屋よ一昨日あしとろめ家 相享  
水意のせききあふに掃えし 風也  
舟ハ切舟よもみハ寄一舟 竹有

重塗の赤しし神ハ歳世居ぬ 無彦  
ちよも清男令とけりあす 逸人  
草生の赤しし掃えし 起石<sup>遠</sup>  
をんし掃えししと掃えし 風也  
皮買よハ只一声よきしあし 雨橋  
又過風よ傘よふ家 友鳳  
路彼清の清書よんてふる月 秋磨  
あふと残す庵ねふきく 焉々



大いなるのきこは海りて在る声 來々  
何れもまゝ来てと果留砂の 歌山  
首飾とおぼけてスリと深き世 逸人  
人乃の氣先のまきあはさ事 范舎  
池水よむれ蒼のほり切り 快臺  
赤き里ともせ窓叫の師也 夙也

逸人

海と身と控よりの色郭云  
若菜葉をりり海何百里 竹有  
細三の節と月と蒼と定ら世 快臺  
きぬさう教と持たしりり里 不轉  
舟代の客にぬさうさわし衣 杜曉  
世もさうさうとさうか園 秋唐

禮をさのた乃長よ水打も 李東

松の琴の浮をちり 打風

蟹の子に巻くも人分ま 並雅

也 吉甫

梓格の石葛とや心猶あ 山夫

あふら 一士

と免息になら 芳受

捨ひ 旭支

瓶をハ消便火ハ少き 一紅

り 茶雷

月 可有

孔 其專

本馬の家 世實

人 昆明

一 范舎

高 雨橋







予 去 冬 孔

清 涼 日  
の 序 了 云 々

嘉 平 志 記

此 四 季 三 番 興

勢 物  
の

風也坊  
つゆの端

つゆの争り  
つゆの争り

能  
乃  
狂  
を  
畧

學  
ひ  
る  
も  
あ  
ら  
ず

つゆの争り  
つゆの争り

事

を  
する

つゆの争り

事



狂言の

我

狂言

の

何れ

養

老

能

句

す

楚

は

人

毛

是 其 差  
別 も 著 也

の 思 ひ 付 ぬ れ へ 事 あり

是 乃 結 の

初 を 占 の 事

之 此 戲 事

辭  
へき

るもあは

いし

例の頓筆  
は

らあ

あはる



虫多

何連

よふ

洞

勢 逸人 無産

得て

鹿鹿 忽

し此集 不及

予

系 每

慢

鹿畧を

又る人

のし多の予素

あり

俳諧

の

ありあはに其

時の興り

乗しん

えあめし

梅樹逸人

慢書



大和文化萬年之十年歲在

癸酉夏五月廿五日

梅樹逸人述

狂画堂墨僊



尾張書肆

昭華



愛 知 県



1103267789